

# 秋田内陸線について

門脇 光郎 議員



## 質問

世紀の悲願、秋田内陸縦貫鉄道も平成元年に全線開業してからわずか十六年、今やその存続さえも危ぶまれる危機に直面しているが住民の生活路線であると共に観光路線としての条件も十二分に持っている。

今後仙北市として「観光産業を活かした北東北の拠点都市をめざして」との結び付きをどのようにお考えなのかお伺いしたい。

## 市長

永年の悲願として開通された秋田内陸縦貫鉄道であ



秋田内陸線継続の願いを込めて

る訳ですが、今その存続が非常に問題になっている所がある。結局は収支の中で赤字補填をどうするかを検討を重ねている所である。

秋田内陸線再生支援協議会を立ち上げ、国の支援を受けながら経営改善を計る為に再

生計画を作成する事だった。

旧三町村の合併に向けてのさまざまな協議中で有り、実質的に沿線町村で有りながら、この協議会には十分な対応が出来ないままに再生計画の立案が成されて作業は進められた。

十一月十日に沿線二市一村の自治体に県、支援団体、会社等含めての協議会が開かれ再生計画、現状の改善項目が幾つか上げられ、数字的改善

方向が提案された。

収支の中で目標とした赤字を一億五千万まで圧縮しても、まだ四千万強の赤字がさらに残る内容であり、可か否かの再生案であつて、自立できるような案ではない。更に検討し、改善策を練っている所である。二月中には何らかの結果が出て来ると思う。

最終的な思いとしては、この内陸線を残す方向で良い案を見出し行きたいと思つている。

## 全農の不祥事に対する

## 行政の対応は

佐藤 生治 議員



ちを醸成する教育の一端として、それぞれの学校で行っている特色ある課外授業に対する考えを伺いたい。

## 教育問題

教育は十年、二十年という長いスパンの中で結果が現われてくると思う。

そこで仙北市の子供たちをどのように教育していくのか、市長の思いの一端をお聞かせいただきたい。特に、親を愛し、家族や郷土を愛する気持ち

## 市長

時代の流れの中で、変わるが、学校ごとの特色や良さは継承し、それぞれが他の学校の良さを学びあうことも大切である。

また、行政、教育委員会が全体的な教育方針や施策を打ち出すわけだが、行政も努力するが、加えて、地域や教師、

そして保護者の皆さんには、熱意と意思を持つて良いものを残すための地域づくりをしていいただき、次の世代に継げていきたいと思つているところであり、郷土と子供達の心のつながる教育をしていきたい。

## 農業問題

## 質問

全農秋田による米の横流し事件は、事件としては決着がついたが、農家に与えたダメージはまだ決着がついていない。このイメージダウン、そして信用回復には大変な努力が必要と思われるが、米どころ仙北市の市長としてどのように考え信用回復のためどう対応するのか伺いたい。

## 市長

事件については遺憾に思つている。この事によって農家の長年の努力がフイになる事はあつてはならない。

ただ楽観する訳ではないが、消費者は事件を冷静に受け留めていると思うし、そうであつてほしいと思つている。

事件の影響を最小限に留め、仙北市の生産物の評価をより高めるため行政も農家と一体となつて努力していきたい。